

# 文化遺産ニュース

*Cultural Heritage News*  
from NARA

Vol.

36

March 2024

|                                     |     |
|-------------------------------------|-----|
| ◎ 集団研修                              | 1   |
| ◎ 文化遺産ワークショップ(インドネシア)               | 2   |
| ◎ 個別テーマ研修(ウズベキスタン)                  | 3   |
| ◎ 国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題Ⅲ」    | 4   |
| ◎ 文化遺産セミナー「時代と文化の転換期 活力の飛鳥から洗練の奈良へ」 | 5   |
| ◎ ICCROM総会参加記                       | 5   |
| ◎ 世界遺産教室                            | 6   |
| ジョグジャカルタの世界遺産                       | 裏表紙 |





# 集団研修

2023年8月10日から9月21日までアジア太平洋地域14か国からの15名の研修生を対象に「木造建造物の保存と修復」をテーマにオンラインと招聘で実施しました。



東大寺持仏堂での実習

集団研修は、ACCUC奈良事務所がおこなう人材養成の中核事業です。「木造建造物」と「考古遺跡」の2種類の研修テーマを、基本的には隔年で交互に実施していて、2023年は木造建造物をテーマにしました。

15名の研修生は、政府機関や博物館などで、自国の文化財保護に携わる若者たち(平均年齢30代半ば)で、多くが建築関連の現場で活躍中です。東チモールからの参加はACCUCでの研修では初めてです。

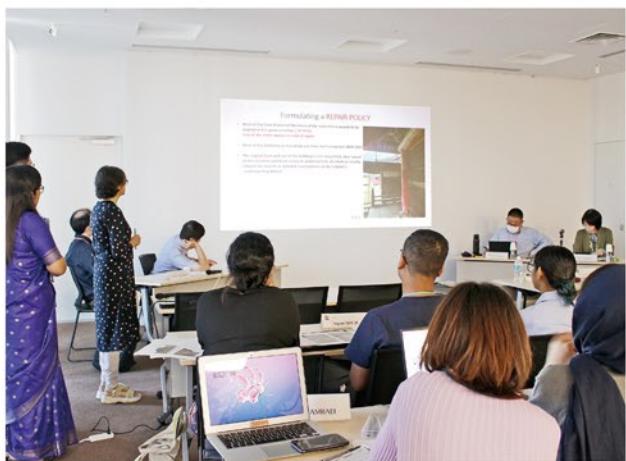
研修は2022年度までの3年間はオンラインでの実施でしたが、2023年度はオンラインと招聘のハイブリッド型式で実施しました。オンラインでは動画の配信に加えて双方向セッションを4回実施し、各国のケーススタディの発



奈良井の見学

表や意見交換もおこないました。それらの基礎的な学習を踏まえた上で、9月7日からの招聘研修では、東大寺の御協力を得て歴史的建造物の破損調査と修理計画の策定の実習をおこない、奈良県文化財保存事務所の修理現場での研修や、白川郷・奈良井・木曾平沢で伝統的建造物群の保存活用の実態を見学しました。

オンラインの講義では、研修生はビデオ教材を自分のペースで受講できるという利点があります。また、現地研修では実際に木造建造物をじっくりと観察し、作業を通じて学ぶという実体験を得ることができ、今回はハイブリッド型式を有効活用した研修となり、オンラインでも対面でも熱心な議論が交わされました。



発表と討論

## 参加国

バングラデシュ・ブータン・カンボジア・インド(2名)・インドネシア・イラン・キリバス・ラオス・マレーシア・モンゴル・ネパール・フィリピン・東チモール・ウズベキスタン

## カリキュラム(概要)

### 動画による講義

「世界の木造建造物保存における国際憲章・世界的動向」「アジア太平洋地域の木の文化財の多様性と地域コミュニティとの保存」「アジア太平洋地域における文化遺産保護の現状と課題」「日本の文化財を守る仕組み」「日本における木造建造物を守る制度概説」「日本の木造建造物の歴史の変遷と種類」「日本の木造建造物の保存」「アジアの木造建造物」「ヨーロッパおよびその他の地域における木造建造物修理理念と手法の比較」「単体の木造建造物の調査と記録」「日本における木造建造物の修理方針の考え方」「日本における木造建造物の修理」「世界遺産白川郷の保存と住民連携」「日本における町並み保存と住民連携」

### 座学

「日本における木造建造物の修理・実習会場の木造建造物の概説」

### 実習

「単体の木造建造物の調査記録と修理方針の策定」

### 臨地研修

(奈良市)東大寺持仏堂／(奈良県橿原市)旧織田屋形／(奈良県原本町)多神社／(奈良県天理市)なら歴史芸術文化村／(兵庫県神戸市)竹中大工道具館・北野町山本通／(岐阜県白川村)荻町伝建地区／(長野県塩尻市)奈良井伝建地区・木曾平沢伝建地区

### 報告・討議

研修生各国の「木造建造物・建造物群などの保存修復と課題」についての報告と意見交換



# 文化遺産 ワークショップ

2023年10月16日から21日まで  
インドネシア共和国のジョグジャ  
カルタで実施しました。



グループ討議



タマンサリ地区での実習



カウマン地区での実習

インドネシアでのワークショップは、2012年に南カリマンタン州マルタラで木造建造物を対象におこなって以来となります。今回はACCUの研修としては初めて「文化遺産危機管理計画」をテーマに実施しました。

ワークショップは本来は海外の現地での講義と実習を中心に構成していましたが、コロナ禍で3年間はリモートでの研修になっていました。対面での講義や実習ができないことで、困難な点がありました。今回は久しぶりの現地研修が実現できました。

研修にはインドネシア各地から文化財の専門職員が計18名参加しました。

会場となったジョグジャカルタには、2023年に世界遺産登録されたばかりの「ジョグジャカルタの宇宙論的軸線と歴史的ランドマーク」があり、その構成資産であるタマンサリ地区とカウマン地区を現地調査対象とすることができました。午前中に講義を受け、午後の前半で現地調査、午後の後半をグループディスカッションに当てるという枠組みを中心にワークショップを進めました。研修生の皆さんは、共同作業を通じて危機管理計画の実際を理解することができたようです。学んだ成果を国内各地での実務に活かしてもらえればと思います。

## カリキュラム

■講義

- 「ジョグジャカルタの世界軸と歴史的建造物群」
- 「文化遺産の災害リスクマネジメント」
- 「インドネシアにおける文化財防災の現状と課題」
- 「世界遺産における災害リスクマネジメントの基準」
- 「都市集落における災害事前復興計画」
- 「文化遺産の価値評価」
- 「自然災害における文化遺産リスクアセスメント」
- 「災害図上訓練」
- 「災害リスクマネジメント計画と実施様々な国の事例から」
- 「緊急対応と復旧・復興」

■実習

- 「文化遺産の価値評価」
- 「自然災害における文化遺産リスクアセスメント」
- 「災害図上訓練」

■グループワークと討議

- グループディスカッション、グループごとに危機管理計画を発表、討議。



参加者の皆さん



# 個別テーマ 研修

2023年11月6日から20日まで、中央アジアの8名の研修生に対し「デジタル技術を用いた考古遺物の記録・保存・展示」をテーマにオンラインで実施しました。



オンライン講義



オンライン実習

本年は考古遺物でのデジタル技術活用に関する研修を実施しました。個別テーマ研修の特徴は、参加者の要望に沿ったオーダーメイドのカリキュラムを編成できることと、英語以外の言語でも開催可能なことにありますので、オンラインでもその特質を活かしています。

近年、考古遺物を調査記録する際に形状を三次元で記録するようになってきています。従来の手測りによる実測図作成ではカバーできない対象への応用が期待され、関心が高い分野になっ

ています。形状を記録するだけではなく、取得したデータの活用事例として保存科学分野での例、博物館展示での利用についても紹介しました。

配信した講義用ビデオは、文章をロシア語に翻訳し、講師の説明もロシア語に吹き替えたものを用意しました。

質疑応答とデモンストレーションは、Zoomを活用し、ロシア語でおこないました。双方向の討議を5回おこないましたので、研修生からの質問に対して詳しく回答することが可能となりました。



参加者の皆さん

カザフスタン3名、キルギス2名、ウズベキスタン2名、タジキスタン1名の研修生の皆さんが新しい技術を活用した調査研究・公開展示を実践することを願っています。

## カリキュラム(概要)

### ■動画による講義

「博物館におけるデジタル技術：ケーススタディに基づく利用と限界」「SfM-MVSを用いた文化財の三次元計測」「考古学調査におけるデジタル技術」「保存科学におけるデジタル技術の活用」「博物館における3D映像の利用」「群馬県立歴史博物館におけるデジタルツアー」

### ■ライブ講義

「SfM-MVSを用いた三次元記録・写真撮影の基本・課題の説明」「博物館収蔵品の保管環境」

### ■デモンストレーションと実技実習

「サンプルデータを使ったモデル構築」「3Dモデルの作成」

### ■課題提出

3D素材撮影データの提出

### ■質疑応答(オンライン)



# 国際会議

2023年12月13日から15日、文化遺産保護に携わるアジア太平洋地域6か国の実務担当者を招聘し、イクロムの方とはオンラインで結んで「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題」をテーマに意見を交わしました。



基調講演の様子



会議の様子

A C C U奈良事務所では2021年度から3か年の計画で文化財防災について各国の担当者と意見交換をおこなっています。2021年の会議では「災害時応急対応事例と課題」を2022年は「災害後の復旧・復興の事例と課題」をテーマとしました。2023年は「災害へのレジリエンスを高めるための減災の取り組みと事前の備え」をテーマとして3年間のまとめとしました。文化庁、独立行政法人国立文化財



見学会(橿原市今井町)

機構文化財防災センター、イクロムとの共催です。  
13日ははじめに國學院大學の下間久美子さんに「日本における防災の取り組みとレジリエンス構築のための備え」と題して基調講演を頂戴しました。次いで、中国、インドネシア、日本、マレーシア、ネパール、ニュージーランドの事例報告をそれぞれの国の方が発表しました。

二日目の14日はイクロムのアパルナ・タンドンさんに「気候変動がもたらす文化遺産へのポリクライシスを乗り越える」と題する基調講演をお願いし、続いて下間さんのコーディネートのもと、参加者全員で「災害へのレジリエンスを高めるための減災の取り組みと事前の備え」について総合討議をおこないました。

文化財を守っていくためには専門家だけが努力するのでは不足で、地域住民が自分たちの文化遺産だという意識を持つような取り組みが必要となっています。現代は様々な災害のリスクが高まっています。関係機関が地域コミュニティと連携しながら災害に対する備えをきつちりとしていくことが被害を軽減する減災につながることを改めて確認され、三か年に渡った会議のまとめとなりました。

この会議の様子は後日インターネット経由で配信されました。

## 参加者の皆さん

下間 久美子 (國學院大學)  
高妻 洋成 (文化財防災センター)  
藤 隆宏 (和歌山県立文書館)  
アパルナ・タンドン (イクロム)  
グオ・イーハン (中国)  
ハリ・セティアワン (インドネシア)  
アン・ミン・チー (マレーシア)  
サキャ・ラタ (立命館大学・ネパール)  
アマンダ・オース (ニュージーランド)



# 文化遺産 セミナー

奈良県橿原文化会館で「時代と文化の転換期 活力の飛鳥から洗練の奈良へ」と題して開催しました。



馬場基さんの講演の様子

奈良県には現在3つの世界遺産がありますが、新たに「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の世界文化遺産への登録を目指しています。対象となっていくのは飛鳥時代の遺産群です。そこで飛鳥時代というのは、どのような時代だったのか、奈良時代と比較してどういう特徴があるのかを明らかにしたいと、講演会を企画しました。

「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の構成資産の近くに位置する奈良県橿原文化会館を会場として2024年1月13日、奈良文化財研究所の馬場基さんに「時代と文化の転換期 活力の飛鳥から洗練の奈良へ」と題して講

演をしていただきました。最初に奈良県世界遺産室の持田大輔さんが世界遺産登録に向けての取組を発表して、参加者の皆さんは世界遺産の仕組みなどを頭に入れた上で馬場さんの講演に臨みました。

講演では、所作や食事の時の作法といった日常生活の上のさまざまな習慣も、飛鳥時代と奈良時代には差があることが示されました。木簡の文字にも時代による差が見られることなど、飛鳥時代の特質について、ジェスチャーを交えた馬場さんの熱弁に引き込まれる時間となりました。



ACCU文化遺産セミナー 2023

## 時代と文化の 転換期

活力の飛鳥から  
洗練の奈良へ

2024年1月13日(土) 13:00~15:00 (開場12:30)

場所  
奈良県橿原文化会館  
小ホール  
(橿原市北八木町3丁目55)

講演者  
馬場基氏  
奈良文化財研究所 橿原支所 研究員

参加費無料

定員:200名  
※定員を越える応募があった場合は抽選となります。

事前申込制

※お申し込みは必ず必要です。

申込方法

必着期間:2023年11月1日(水)~11月30日(水)  
Eメール、FAXまたは、なら歴史観光文化利便ポータルより  
お申し込みください。

お問い合わせ先

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所  
〒632-8022 奈良県橿原市北八木町3丁目55 文化財研究所 小ホール  
TEL:0743-49-5050 FAX:0743-49-5022 e-mail:naei@accu.or.jp



アクセス

電車:近鉄「大宮八木」駅下車、徒歩約3分  
※奈良県橿原文化会館には駐車場がありません。  
お車で来られる場合は、周辺の有料駐車場をご利用ください。

主催:公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

文化遺産保護協力事務所(ACCU)主催

後援:奈良県、世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会、橿原市



セミナー開催案内のポスター

## イクロム 総会2023

2023年11月2日・3日にローマにあるイクロム(ICCROM/文化財保存修復研究国際センター)の総会に出席しました。

イクロムは、ACCUCU奈良事務所がおこなう各種事業のなかで、特に集団研修と国際会議の開催に際して、大切なパートナーとなっている国際的な政府間機関です。日本からも、文化庁が専門の職員を派遣しています。

総会は2年に1回開催され、今回が第33回にあたりますが、前回がコロナ禍のためにリモート開催だったので、対面での開催は2019年以来となります。

議事は予算や選挙など組織運営に関することが中心ですが、「移民問題と文化財」といった研究発表もおこなわれ



# 世界遺産 教室

高校生ら530名余りが受講しました。



関西中央高校



法隆寺国際高校

奈良県内の高校生等を対象に、世界遺産研究家が出前授業をおこなない、世界遺産に関する知識を深めるとともに文化遺産保護の大切さを理解してもらうために世界遺産教室を開催しています。今年度は高校5校で計6回と、初めて中学校1校で2回の教室を開きました。歴史や観光を特に学んでいる学校からの要望が多いという特徴がありました。

奈良県は数多くの文化遺産に恵まれ、世界遺産も3つあります。そこで奈良県の歴史と文化について学ぶことを足がかりに、日本全体そして世界へと視野を広げて世界遺産条約が生まれた背景や目的・意義、世界遺産の現状と課題について学ぶ場を提供する世界遺産



奈良市立一条高校附属中学校

教室の果たす役割は大きいと考えています。

講師は長年、世界遺産教室の講師を務めておられる、フリーアナウンサーの久保美智代さんに多くをお願いし、1校では2023年度は奈良市教育委員会にも講師をお願いしました。受講生の皆さんは、世界各地の世界遺産を現地で撮影した美しい映像を見て、クイズなども交えた講師の熱い語りを熱心に受講していました。

## 開催校

奈良北高校・法隆寺国際高校・奈良商工高校（2回）・関西中央高校・奈良県立大学附属高校・奈良市立二条高校附属中学校（2回）



ICCROM総会

ました。理事選挙では、文化庁の西和彦さんが理事に再選されました。また、会長のンドロ氏は2023年末で退任となり2024年からは、アルナ・フランチェスカ・マリア・グジュラル氏が新会長となることが決まりました。初めての女性の会長です。

会議終盤、ACCUからも発言を求め研修事業を紹介するとともに、イクロムからの毎年の協力に謝意を表しました。



# ジョグジャカルタの世界遺産



表紙の写真：タマンサリ

インドネシアでは10件の世界遺産が登録されており、そのうち6件が文化遺産です。ジャワ島中央部では、ボロブドゥル寺院遺跡群、プランバナン寺院群、サンギラン初期人類遺跡の3か所が以前から登録されていましたが、2023年「ジョグジャカルタの宇宙論的軸線と歴史的ランドマーク」が加わりました。構成要素に木造建造物が多く含まれている遺産は初めてです。本件は王宮を中心とする南北の軸線が主題となっている遺産で、多くの構成資産からなり

ます。その中からワークショップの現地研修の場所にもなった、タマンサリ地区、カウマン地区も含めて紹介します。トゥグ記念碑は遺産の北端にある塔で交通量の多い交差点の中央に建っており軸線の表象です。タマンサリ地区は王宮の西側にある王家の庭園からなり、カウマン地区はモスクの周囲に広がる古い民家が密集している一画です。これらの遺産は現在も機能している建物が多く、儀式などとも結びついた「生きている遺産」を形成しています。



上左：トゥグ記念碑 上右：王宮 下左：タマンサリ地区 下右：カウマン地区

## 公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター 文化遺産保護協力事務所

Cultural Heritage Protection Cooperation Office, Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO



〒632-0032 奈良県天理市杣之内町437-3  
(なら歴史芸術文化村 文化財修復・展示棟2階)

TEL 0743-69-5010  
FAX 0743-69-5021  
URL <https://www.nara.accu.or.jp/>  
E-mail [nara@accu.or.jp](mailto:nara@accu.or.jp)

### 交通アクセス

近鉄・JR天理駅から ●バス1番のりばから直行シャトルバス